

学会紹介 (PICMET、ICPM、ICENS 他)

千葉工業大学 教授 久保裕史

本稿では、筆者が 2017 年 7 月～9 月に参加した 3 つの国際会議 (PICMET、ICENS 他、ICPM) についてご紹介します。今後、これらの国際会議も、P2M の意義や有用性を広めていく場として活用していきたいと思えます。

1. PICMET

PICMET (Portland International Conference on Management of Engineering and Technology) は、1989 年に技術経営に関する国際的な非営利団体として設立され、'91 年に第 1 回国際会議を開催した。毎年、ポートランドと海外で交互に開催され、今年は 7 月 9 日～13 日にポートランドで開催された。本組織は、ポートランド州立大学をはじめ、世界各国の研究者らによって運営されている。会議には世界 30 数カ国から 400 人前後の研究者や実務者らが参加し、技術経営全般に関する講演や研究成果発表、ディスカッションが行われる。日本からも毎年、大学や企業などから数十名が



図 1 PICMET の会場風景

コンスタントに参加している。プロジェクトやプログラムマネジメントに関するセッションも複数設けられ、最先端の研究成果が報告される。最近は、アジャイル関連の発表が比較的好く目につく。プロシーディングズへの投稿論文は、複数の査読者によって厳正に審査される。来年は、ハワイで 8 月 19～23 日に開催される予定である。詳細は、次の URL をご参照下さい。
<https://www.picmet.org/main/>

2. ICENS 他

ICENS (International Conference on Engineering and Natural Science) は、工学と自然科学に関する国際会議である。毎年、夏と冬の年 2 回、開催されることが多い。本会議は、複数の国際会議が同じ場所で同時に開催される合同国際会議である。今年は、8 月 23～25 日に札幌コンベンションセンターで、ICENS と、以下に示す計 5 つの国際会議が同時に開催された。

- ・ ISESS (International Symposium on Economics and Social Science)
- ・ HLST (International Conference on Hospitality, Leisure, Sports, and Tourism)
- ・ LIS (International Conference on library and information science)
- ・ ICEPL (International Conference on Education, Psychology, and Learning)

これら計 5 つの会議に、26 カ国から約 250 名の研究者や実務者が参



図2 ICENS 他 合同国際会議での記念写真 (2018年8月札幌コンベンションセンター)

加した。今回は、久保が ICENS のチエアと、会議全体のホスト役を務めた。

これらの会議は、台湾の大学教員や若い職員たちからなる組織によって、効率よく運営されている。参加費は400ドルで、他の国際会議の1000ドル前後と高額であるのに対し、比較的リーズナブルといえる。会議毎に各国研究者らによる国際委員会が組織されており、プロシーディングズ掲載論文は全て審査される。その採択率は、約6割という。

本合同会議で P2M に関する論文を発表する際、どの会議の場で発表すべきか、選択に迷うところではあるが、基本的にはその内容に応じて選択すべきであろう。本合同会議は、その対象領域が非常に広いため、あまり深い議論は期待できない。しかし、新興国からの参加者が多く、今後 P2M 普及の面では期待できよう。

直近では、次の国際会議が予定されている。

- ICENS 2018 : 1/30~2/1
札幌(<http://science-techs.org/icens/>)
- ISESS 2018 : 1/30~2/1
札幌(<http://science-techs.org/isess/>)
- HLST 2018 : 1/30~2/1
札幌(<http://science-techs.org/hlst/>)
- LIS 2018 : 8/8~8/10
バンコク(<http://soci-science.org/lis/>)
- ICEPL 2018 : 4/6~4/8
名古屋(<http://sciencetechs.org/icepl/>)

3. ICPM

ICPM (International Conference on Production Management)は、日本生産管理学会が主催する国際会議である。同学会が対象とする領域は、従来の狭義の経営工学のみならず、経営学全般をカバーしている。したがって、プロジェクトマネジメントやプログラムマネジメントに関する発表も歓迎される。今回の第3回国際会議は、9月9日にタイのアサンプション大学で、同学会の全国大会を兼ねて開催された。

進境著しいタイ東部に位置するア Sampson 大学は、富裕層の子女が数多く在籍する総合大学であり、教育体制と大学施設が極めて充実している。キリスト教系の大学でありながら、広大なキャンパスの中には、豪華絢爛な寺院も建立されており、自由な雰囲気を感じられた。数多くの大学教職員や学生ボランティアの歓待ぶりには、参加者一同、感激しきりであった。

今回の ICPM には、現地の日系企業 3 社（コマツ、エクセディ、新川）の工場見学や JETRO 駐在員の講演の他、

アユタヤ遺跡やアンコールワット遺跡、トンレサップ湖の見学もオプションツアーとして用意され、充実していた。

ICPM のプロシーディングズ向けのフルペーパーは 4 頁だが、希望者の研究論文は全て査読され、受理証明書が発行される。会議後、6 頁の有査読研究論文として投稿し受理されれば、有審査の ® の表記が施されて同学会発行の英論文誌に掲載される。

以上



図 3 タイア Sampson 大学での第 3 回 ICPM 記念写真